

2. サマー・ワーク・キャンプ 2015 開催報告

<2日目：9月13日（日）>

ワールド・カフェ「学校図書館と生涯教育」要旨

SLiiiC サマー・ワーク・キャンプ 2 日目は今年のキャンプにもファシリテーターとしてワークショップをお願いした専修大学の小峰先生と、そのゼミの学生さんにより準備された「ワールド・カフェ」が行われました。（ワールド・カフェについては、小峰先生の解説に詳しく記載されていますのでご参照ください。）

会場には、前半のファシリテーター役の学生さんたちにより、グループテーブルの上に風船や花が飾られ、楽しい空間が作られ、テーブルクロスには薄いピンク色の模造紙が敷かれていました。参加者の気持ちを和らげ、リラックスしたなかで、会話がスムーズになされるように考えられた配慮に小峰研の心配りの妙を感じられました。

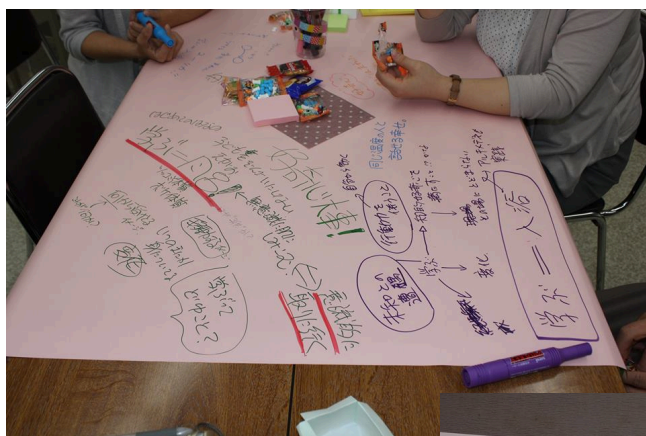


参加者それぞれに黄色の B6 版のハンドブックが配られました。今回のカフェの開催社名は「自転社」。「図書館が生涯学習により良く生かされることを、そして多くの人が進みだせる 1 つの自転車であることを願っています。」とのメッセージがこめられています。

まず、小峰ゼミの稲井田さん、鈴木さんがファシリテーターとなり、「子どもが〇〇した時にすすめたい本は？」との問いから始まり、「あなたにとって最高の図書館司書とは？」「このワークショップにいらっしやった理由は？」と問いが続きます。参加者はテーブルクロスの模造紙に各自の思うところをマーカーで書き込んでいき、お互いの

思うところを語り合いました。そして第2ステージのグループへと移動。ここから小峰先生の主導に変わり、いよいよ大テーマの「学校図書館と生涯学習」に向けての対話へ進みます。「学んでどういうことでしょうか?」「何のために私たちは学び続けることが必要なのでしょうか?」「どうして学び続ける力が求められているのでしょうか?」「学校図書館は、子供たちの学び続ける力を育てるのに何ができ、何をすべきでしょうか?」と、次々に用意された問いに対して、それぞれが手元の模造紙の上に思うところを記入します。同じテーブルの人同士で、お互いの答えを共有し、席替えをしながら対話が進んでいきます。そして、沈黙の時間1では「子供たちに学び続ける力をつけるために、あなたは今日から何をしますか?」、沈黙の時間2では「本日の対話で最も印象に残ったことをポストイットに書き出して下さい」との問いが提示されました。最後にテーブルの上に用意された付箋に、おのおのの意見や決意、思いが記入され、皆で共有する時間となりました。参加者が各自行っている実践内容についても語りあいました。

今回は小峰先生、ゼミの学生の方々にも12日の高井氏の講演を聴いてもらいワールド・カフェに繋いでいただきました。キャンプ前の丁寧な打ち合わせに始まり、就活で忙しい中、学生さんにも参加をお願いし、フレッシュな感性でのカフェを開催していただきました。ワールド・カフェでの対話から参加者の皆さんがリラックスして自身の思いや決意を見つめていくことができた様子です。それは、参加者が記入したリフレクションシートからも窺えました。



(記・関雅美)

